

奥州市の未来を共に考える

まちづくりデザイン

未来羅針盤図



奥州市は、北上山地と奥羽山脈に挟まれた広大な市域を持ち、その中心を北上川が流れる肥沃な地帯です。県内屈指の米どころであり、前沢牛、江刺りんごをはじめとする質の高い農畜産物の産地です。

自然豊かな土地ながら、市の中央を新幹線や高速道路が走り、首都圏とのアクセスも良く、北上や金ヶ崎とともに自動車、半導体産業の一大集積地となっています。

こうした背景から、江刺岩谷堂の江刺工業団地内に新たに造成している江刺フロンティアパークⅡは完売し、数年後には1400人を超える雇用が見込まれます。

これは、人口減少に悩む奥州市に大きなチャンスです。この機を逃すことなく、新たなまちづくりを進めることが重要です。

まちづくりを進める上での注目点!

人口減少社会において、持続可能なまちづくりを進めるためには、将来を見据えた戦略的な方針が必要です。

《奥州市のまちづくりのコンセプト》

- ◆ 奥州市の将来を担う人に投資するまちづくり
- ◆ 地域の特徴を生かしたまちづくり
- ◆ 市民の皆様と協働し、民間の資本やノウハウを取り入れた官民共創によるまちづくり



いつまでも住み続けたいくなる魅力あふれるまちの形成

「奥州市未来羅針盤図」は、こうしたまちづくりを進めるための「市が目指すまちの開発デザイン」であり、8つのプロジェクトから成ります。それぞれのプロジェクトは相互につながり、補完し合いながら相乗効果を生み、奥州市全体の発展につながります。

奥州市未来羅針盤図

市が目指すまちの開発デザイン

全市展開

1 地域医療奥州市モデルプロジェクト

地域全体をカバーするネットワーク型による地域医療体制の構築

2 未来型公共交通プロジェクト

利便性の高い持続可能な公共交通システムの構築

3 小さな拠点づくりプロジェクト

地域住民・民間組織・市の協働による持続可能な生活圏の維持

奥州湖周辺エリアプロジェクト

アウトドアフィールド・アクティビティの開拓と人材育成、民間企業との連携強化

奥州湖周辺



小さな拠点づくり(衣川)プロジェクト

協働による持続可能な生活圏の維持(見守り電球を使った高齢者の見守り、民生委員活動にタブレット活用など)

衣川地域



水沢市街地エリアプロジェクト

メイプルリニューアル、水沢公園リニューアル、駅前周辺の賑わいの創出

水沢市街地



江刺市街地エリアプロジェクト

誘致企業雇用者対策、官民連携による市有地有効活用

江刺市街地



水沢江刺駅周辺

前沢市街地



前沢市街地



小さな拠点づくり(伊手)プロジェクト

協働による持続可能な生活圏の維持(旧伊手小学校を活用した拠点づくり)

伊手地域



水沢江刺駅周辺エリアプロジェクト

南岩手交流プラザリニューアル、駅周辺開発、鋳物産業と連携した情報発信の強化

前沢市街地エリアプロジェクト

駅周辺の生活環境の充実、デジタル技術を活用した利便性の高い公共交通システムの導入

地域医療奥州市モデルプロジェクト

狙い

【地域医療対策】 限りある医療資源を効率的に活用し、地域全体をカバーするネットワーク型による地域医療体制の構築
 【周産期支援】 関係機関との連携、各種助成制度の実施安心して分娩できる環境を構築

観測指標

在宅での生活が可能と
考えている人の割合

H29	79.1%
R3	79.0%



R8	%
----	---



開発コンセプト

- 新医療センター建設（医療、子育て、ヘルスケア）
- 地域包括ケアシステムの推進
- 市立医療施設の経営改善

他の施策との戦略的連携

【公共交通】 通院しやすい公共交通システムの構築

◆地域包括ケアシステムの推進

訪問診療
(モバイルクリニックによる遠隔医療含む)

訪問看護

介護サービス

◆へき地医療の提供

地区センター

企業・団体との連携

団体	奥州医師会
団体	奥州歯科医師会

モバイルクリニック
による遠隔医療



市立病院



介護施設



市立診療所



民間医療施設

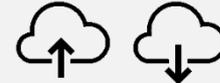


新医療センター

- ◆医師の働き方改革
- ◆持続可能な病院経営

◆医療施設間における機能分化と相互連携

クラウド



医療情報の共有・ネットワーク化

◆DXの推進



県立病院
(広域)

救急医療
高度医療
出産

◆周産期サポート



宿泊支援



移動支援



妊婦・胎児情報

妊婦健診

民間産婦人科



未来型公共交通プロジェクト

狙い

【公共交通対策】路線バスが行き届かない空白エリアにおいて、事前予約型乗合タクシー（事業者委託型）や自家用有償旅客運送型による地区内交通を整備し、市民・公共交通事業者・行政が共に支え合う、利便性の高い持続可能な公共交通システムの構築

開発コンセプト

■空白エリアのフォロー

- 乗合タクシー型・自家用有償旅客運送型地区内交通の整備
- AIデマンド型地区内交通の導入

■地区内交通を補完

- 共助型交通システムの導入検討

事前予約型乗合タクシーによる
地区内交通



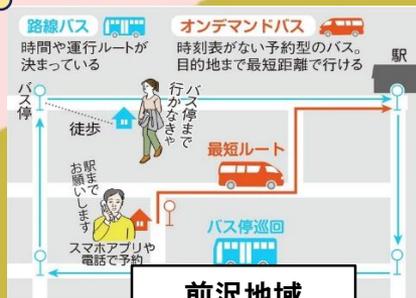
胆沢・衣川地域等

自家用有償旅客運送による
地区内交通



市内中山間地域

AIを活用したデマンド型
地区内交通
(予約配車システムの導入)



前沢地域

共助型による
地区内交通
(ライド・シェア)



観測指標

コミュニティバス等・地区内交通
利用者数

H30	96,125	人
R3	69,808	人



R8 人

■運転手不足対策や負担軽減

- デジタル技術の活用
- 自動運転バスの活用

- ・キャッシュレス決済の導入
- ・デジタルサイネージの導入
- ・自動運転バスの導入検討

市内路線バス・主要施設



小さな拠点づくりプロジェクト

狙い

【小さな拠点】地域住民の合意形成（地域デザイン等）のもと、住民が主体となって事業者、市と連携・役割分担した、日常生活に必要な機能・サービスの集約による地域資源を活かした持続可能な生活圏の維持

地域住民による活動のステップ

①地域住民による「地域デザイン」の策定

②地域住民主体の地域運営組織の形成

③生活サービスの維持確保

④仕事・収入の確保

モデル1 衣川地域生活圏

地域と市の協働で生活サービス等事業をモデル的に実施

- 地域でアンケート調査やワークショップを実施
- 「衣川地域の将来ビジョン」をR2年度に策定



- R4年度に衣川地域振興会連絡会を運営組織として「小さな拠点づくりモデル事業」のモデル地区指定

地域と市の協働でモデル事業を実施

高齢者デジタルサポーターによるスマホ活用の推進



地域おこし協力隊による地域資源活用



住民との話し合いにより、プロジェクトの「狙い」に即したモデル事業を実施



民生委員活動にタブレットを活用



見守り電球を使った高齢者の見守り



モバイルクリニックによる遠隔診療



モデル2 伊手地域生活圏

住民主体による地域資源を活用した地域づくり

- 振興会が地域資源活用特別プロジェクトを立ち上げ
- 検討チームによる住民アンケートや勉強会を実施



- 地域住民によるワークショップを経て「基本構想」を策定
- 旧伊手小を複合施設に利活用
1階に伊手地区センターを移転
2階を地域運営組織が活用

旧伊手小学校を活用した複合施設を拠点に地域資源を活かした生業の創出、地域交流を促進

農福連携の推進・農作物の加工



体験プログラムの構築
グリーンツーリズムへの対応



キャンプや野外イベントの開催



安らぎの場
ブックカフェの開設



企業・団体との連携、地域資源

宿泊施設	(株)リハホテルズ&リゾート
スキー場	(株)北日本リゾート
温泉	黒滝温泉
キャンプ場	ふるさと自然塾

効果があった事業は全市展開

観測指標

小さな拠点数（事業に取り組んだ地域等の数）

R5 1 箇所 → R8 箇所

企業・団体との連携、地域資源

農業生産	果樹園、産直施設
地域資源	金命水、キャンプ
自然景勝地	阿原山高原
郷土芸能	鹿踊り、獅子躍り

奥州湖周辺エリアプロジェクト

狙い

- 【交流人口拡大】観光客やリピーターなど交流人口を増加させる観光・体験コンテンツを拡充
- 【観光振興】従来の通過型観光から滞在型・体験型観光にシフトさせ、地域経済に寄与する仕組みの構築
- 【スポーツ振興】日本有数のカヌー競技環境、アウトドアフィールドなどを生かした競技力の向上、健康増進、生涯スポーツの推進

観測指標

奥州湖周辺エリア
関係施設入込数

H29	212,975人
R4	154,820人

R8 人

開発コンセプト

- 民間企業と連携強化（温泉、キャンプコテージ、情報発信、イベント実施、ショップ展開、オリジナルブランド開発）
- アウトドアフィールド・アクティビティの開拓と人材育成（カヌー、ラフティング、登山、サイクリング）
- 周辺エリアとの広域観光の連携推進

他のエリアとの戦略的連携
広域観光としての連携

カヌー・ラフティングの推進
（レジャー、生涯スポーツ、競技力強化）



湖面・河川空間の活用
（湖面利用、ダム管理支所の活用、ショップ・飲食コーナーの設置等）



登山・トレッキングの推進
（登山道等の整備）



サイクルツーリズムの推進
（コース設定、サイクルステーションの設置）



奥州湖交流館の整備
（アウトドアツーリズムの拠点機能、トレーニングセンター機能の付与）



民間宿泊施設との連携強化
（ひめかゆ温泉、フォレストコテージ）



企業・団体との連携

包括連携協定企業	(株)モンベル
カヌー振興連携協定	(公財)日本カヌー連盟
宿泊施設	(株)ひめかゆ



水沢市街地エリアプロジェクト

狙い

【賑わい創出】市の中心としての賑わいを取り戻し、利便性の高い新たな居住空間を創出

【子育て環境の充実】安心して子育てできる医療環境、子育て環境の充実

【ウォークブル空間の創出】歴史、教育、科学、医療、商業、公園、行政機関が集約され、徒歩で生活可能な空間創出

開発コンセプト

- メイプルリニューアル（賑わいと学びの拠点）
- 水沢公園リニューアル（新医療センター、憩いの場、健康づくりの場、子育て空間）
- 駅前周辺の賑わいの創出（イベント、マルシェ、歩行者天国等）

他のエリアとの戦略的連携

- 【江刺市街地エリア】アクセスの強化
- 【水沢江刺駅エリア】アクセスの強化

徒歩で生活可能な
ウォークブル空間の創出
※駅から徒歩10分（800m）圏内

メイプルリニューアル



観測指標

通行量（歩行者）

H29	806人
R3	583人



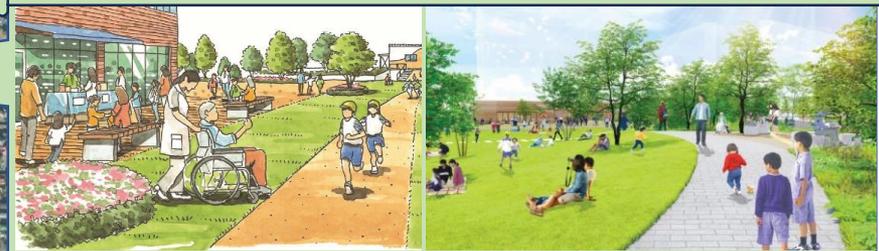
R8	人
----	---



駅前周辺の賑わいの創出



水沢公園リニューアル



江刺市街地エリアプロジェクト

狙い 【誘致企業雇用者対策】雇用増に伴う移住定住対策と良好な居住・通勤環境づくり
【生活環境の向上】市有地などの有効活用による住みよいまちづくり

観測指標

岩谷堂地区内人口

H29 10,404人

R3 10,390人



R8 人

開発コンセプト

- 誘致企業雇用者対策(居住、通勤、生活環境の整備)
- 官民連携による市有地有効活用(文化・子育て等)

他のエリアとの戦略的連携
【水沢市街地エリア】アクセスの強化
【水沢江刺駅エリア】アクセスの強化

江刺工業団地一帯
道路整備の拡充
(道路拡幅、ロードヒーティング)

誘致企業雇用者の移住定住促進



市有地の有効活用



江刺総合支所周辺の市有地活用
(江刺体育文化会館等跡地活用)

市有地

江刺総合支所

旧商業施設跡地

水沢江刺駅周辺エリアプロジェクト

狙い

【水沢江刺駅周辺開発】奥州市の玄関口としての駅周辺開発（民間資本を呼び込んだ市有地の有効活用）
【シティプロモーション】南岩手交流プラザを奥州市の情報ターミナルとして最大限活用

開発コンセプト

- 南岩手交流プラザリニューアル（PR強化）
- 駅周辺開発（ディベロッパー提携、民間投資の呼び込み）
- 鋳物産業と連携した情報発信の強化（地域おこし協力隊との連携）

他のエリアとの戦略的連携

- 【水沢市街地エリア】アクセスの強化
- 【江刺市街地エリア】アクセスの強化



前沢市街地エリアプロジェクト

狙い

【コンパクトなまちづくり】医療・教育・商業等、生活に必要な諸機能が近接した効率的で持続可能な都市の形成
【公共交通対策】まちづくりと連動した利便性が高い持続可能な地域公共交通対策

観測指標

前沢市街地

H29 5,298人

R3 5,266人



R8 人

開発コンセプト

- 前沢駅周辺の生活環境の充実（アクセス環境、防災力向上）
- デジタル技術を活用した利便性の高い公共交通システムの導入
- 未利用市有地等の利活用の検討

他のエリアとの戦略的連携
【衣川エリア】生活圏域の拡大

JR前沢駅周辺等の生活環境の充実



県立前沢高校

前沢小学校

前沢中学校

前沢総合支所

前沢いきいき
スポーツランド

前沢診療所

JR前沢駅

国道4号線

AIを活用したデマンド型地区内交通の導入

路線バス

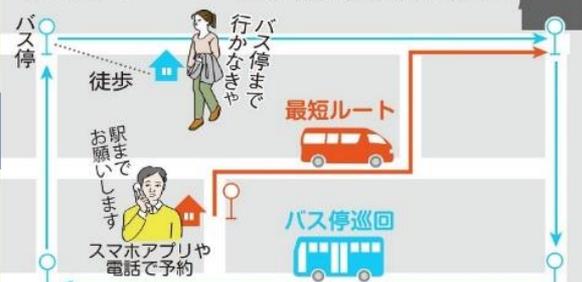


時間や運行ルートが
決まっている

オンデマンドバス



時刻表がない予約型のバス。
目的地まで最短距離で行ける



市街地開発プロジェクトにおける留意点

人口減少社会では、人口密度の低下とともに空き家、空き地が増え、都市のスポンジ化が進む恐れがあります。

そうなると医療、福祉、子育て支援、商業など生活サービスの提供の維持が困難になり、行政コストの増加も懸念されます。

持続可能なまちづくりをすすめていくためには居住や都市機能を集約し、一定の人口密度を維持することが必要です。

こうした観点から、市は今年度中に立地適正化計画を策定し、居住と都市機能を誘導すべき区域をそれぞれ定め、今後それらを誘導するための各種施策を実施します。

最後に、

経済や人口が右肩上がりだった時代と異なり、現代社会は厳しい状況です。

だからこそ、様々な社会課題に果敢に挑戦することが求められます。社会課題を他人事にせず、当事者意識をもった行動がまちづくりに最も大切です。

変革が無理だと思わぬ思考停止に陥ることなく、市は市民の皆様とともに、あらゆる可能性を探り、解決策を見出していきます。